

質疑応答

説明会概要

2022年5月10日（火）16:00-17:00

Zoom ウェビナー

機関投資家・アナリスト向け

質問1. 業績修正の要因について

回答 第1四半期が想定よりよかった。計画比で売上は約1.5億円、営業利益で約2億円上振れた。また、販管費は不要不急の出張を控えたこと、他に発生の遅延等で想定より下振れた。第2四半期以降は期初計画から変更していない。そのため、第2四半期が減速するような計画になるが、特に新たに見込んだものはない。

質問2. 第1四半期は想定と何が違ったのか

回答 半導体を搭載するPKGが好調で、関連するCZが計画より上振れた。CZ売上は過去最高である。当社が得意としているハイエンドからミディアムあたりの需要は底堅い。一方、ディスプレイは低調だった。これはマクロ経済の影響を受けるTV関係の影響であろう。また、為替が円安になり売上と利益を押し上げた。

質問3. 薬品粗利益率の低下の要因について

回答 原材料費上昇と一部製品の中国工場から日本工場への一時的な生産地切替え等によるもの。

質問4. CZ増加の要因について

回答 増加しているものは、高機能PKGに使用されるCZ-8201。一番増加しているものは、CZの後処理剤。PKGの高密度化に伴い導入される傾向にあり、増加している。

質問5. EXEのハイエンドスマートフォン用基板向けの進捗について

回答 一部のスマートフォンで使用されている。売上は数千万円の下の方である。今後伸ばしていきたい。